

みどり市立東中学校

令和元年12月13日

学校だより

第 30 号

AZUMA JUNIOR HIGH SCHOOL NEWS

人権学習

先週は東中人権週間として、人権に関する DVD を学年ごとに視聴して考えたり、人権標語を作ったりなど様々な学習が行われました。

4日（水）、富弘美術館の朗読ボランティアグループ「杲の会」の方にご協力いただき、『富弘さんの生き方や詩画にふれ、思いやりの心を育てよう』と題し朗読会を行いました。当日は、「杲の会」の方に指導していただきながら練習を重ね、秋風祭や富弘美術館で朗読を披露してきた二人の3年生も朗読を行いました。今回朗読された星野富弘さんの詩やエッセイには、母への感謝、命について、身近な植物に寄せる思いなどいろいろな要素が込められています。同じエッセイや詩を聞いても、聞いている側の気持ち次第で印象が変わってきます。今回の朗読会を通じて、子どもたちの心の中にどんな言葉が残ったのでしょうか。



6日（金）、手話講師の〇先生と手話通訳の〇先生をお迎えして「手話教室」を行いました。耳の聞こえない方とほとんど触れ合ったことのない子どもたち。はじめに耳が聞こえないと困ることなど、身近な生活の中での不自由さについて考えました。目覚ましには振動するものを枕の下に入れておく、来客は光の点滅で知らせるなど、不自由さをどのように解決しているのか、映像などで教えていただきました。後半は、コミュニケーション手段である手話を学習。一人一人自分の名前の表し方や挨拶の手話を教えていただき、手話を使った自己紹介にチャレンジしました。手話言語条例が制定されましたが、手話が使え人はまだまだ少ない状況です。この日習った手話を機会があったら積極的に使い、身に付けてくれるといいなと思っています。



小中合同学校保健委員会

5日（木）、あずま小学校において小中合同学校保健委員会が行われました。今年度は、あずま小学校が中心となって「好き嫌いの激しい子どもたちに苦手なものを少しでも食べてもらいたい」という目的を持って開催されました。

初めは「簡単！野菜克服献立」と銘打って小・中学生がグループに分かれ、栄養教諭の指導の下、協力して「変わりビビンバ」を作りました。小・中学生の保護者の方も参加し、調理の協力をしてくださいました。にんじん、玉ねぎ、ごぼうを中学生が中心となって切り、他の材料と一緒に炒め、合わせ調味料で味を調えました。給食のご飯にのせて出来上がり。みんなでおいしくいただきました。「この雰囲気では残せない」と普段野菜を苦手としている生徒も頑張ってお食べていました。

午後は、「苦手なものを食べるためにはどうしたらよいか？」というテーマで中学生がリーダーとなってグループで話し合いました。「細かく刻む」「好きなものに混ぜる」「おなかをすかせて食べる」「味付けを工夫する」「自分で作る」などいろいろな意見が出されました。

最後に学校医の先生と、保健師さんから講評をいただきました。お話の中にあつた「今食べているものが将来の自分の体を作る元になる」ということを大切に自分たちの食生活を見直さきっかけとなればよいと思います。



詩画公募展表彰式

第7回を迎えた富弘美術館詩画の公募展には、全国36都道府県、4歳から91歳まで2698点の応募があったそうです。本校の先輩である星野富弘さんが取り組んで来た詩画の世界が、年々全国に広がっていることを本当に誇らしく思います。東中学校でも、富弘美術館の学芸員さんにご協力頂きながら、全校生徒が制作に取り組み応募しました。

みどり市中学生の部263点の中から1年生のK君の作品が入賞し、7日に行われた富弘美術館での表彰式に立派な態度で臨みました。表彰式後、選者の方から作品についての講評や励ましのお言葉をいただきました。

